

概要版

第5次地域福祉活動計画書

～花咲くメルヘンふれあいプランV～

(計画期間 令和2年度～令和4年度)



社会福祉法人 玖珠町社会福祉協議会

基 本 理 念

みんなで支え合い、安心・安全の暮らしをつくる

～誰もが「安全・安心」を実感できる暮らしを地域で支え合う～

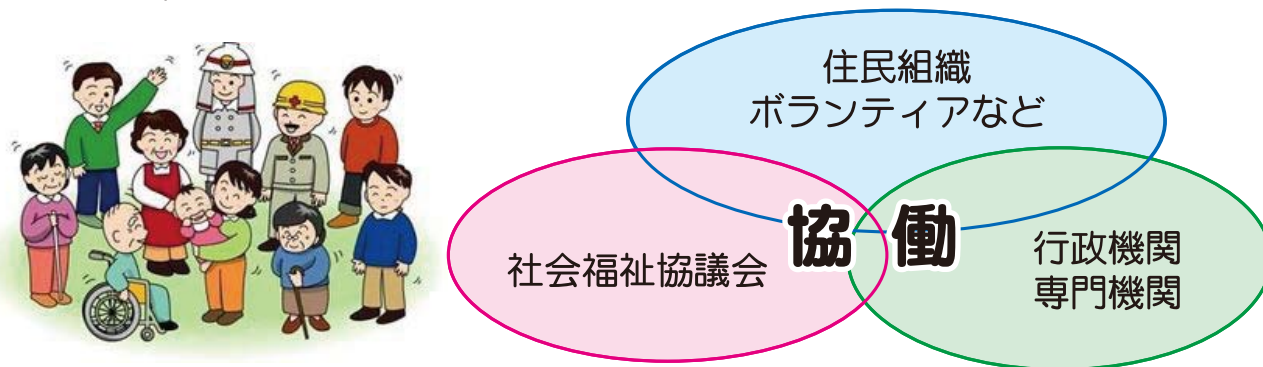
この「第5次玖珠町地域福祉活動計画」は、町がすでに策定している「第3次玖珠町地域福祉計画」を実行に移すもので、基本理念である「みんなで支え合い、安心、安全の暮らしをつくる」を同一にしています。そして“地域共生社会”の実現や“我が事・丸ごと社会”への転換に向け、地域のつながりを深め、住民主体の助け合い・支え合い活動を推進しながら、誰もが安心して安全に暮らすことのできるまちづくりをめざします。

令和2年10月

計画の期間

この計画は、令和2年度から令和4年度までの3カ年計画です。

計画の進め方



過疎化や少子高齢化が進む中で、暮らしの困りごとが増えています。この計画を策定するにあたって、地区コミュニティ単位に、これらの困りごとを地域課題として洗い出し、力を合わせて解決しようと話し合いました。また、地域課題の解決には、行政をはじめ専門機関や社会福祉協議会も連携し、協働することを確認しました。

この計画が示す「実施目標」と「具体的な取り組み」は、玖珠町社会福祉協議会が住民の皆さまや関係機関と連携して積極的に取り組んでまいります。また、地区別計画については、地区コミュニティ単位に地域の皆様と話し合いながら進めてまいります。

基本目標 1 【支え合い】

住み慣れた地域で支え合い自立した暮らしの推進

いくつになっても住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、4 地区コミュニティを中心に、地域の各種団体がつながり、情報の共有や意見交換ができる仕組みをつくります。

また、交流の機会や学びの場を通じて、暮らしの不便さを自分たち地域の課題として受け止め、解決に向けて取り組む“協働の意識”を醸成します。

基本目標 2 【安全・安心】

安全に安心して住み続けられる地域づくりの推進

一人ひとりがご近所や地域とのつながり、安全に安心して暮らせるように声掛けや安否確認など住民主導の防犯・防災体制の確立をめざします。また、制度の狭間や複合的な課題に対応できるよう、相談機能を充実するほか、専門分野の横断的支援ができるよう関係機関のネットワークを強化します。

基本目標 3 【地域で活躍】

生きがいを持って社会に参加し活躍できるしくみづくりの推進

支援する側・される側という双方向の考えから「地域の困りごととはみんなで支える」という包括的な考え方に転換し、身近な地域でだれもが主体的に活躍できる仕組みをつくります。また、地域福祉の推進は、地域づくりそのものであることを啓発し、多くの住民や組織が相互に連携し、継続的かつ日常的に活動できるよう取り組みます。

地域福祉活動においては、「もちつもたれつ」、「おたがいさま」という対等な関係の中で、課題に向き合い、知恵を出し合い、住民自らの活動で解決をめざします。地域住民で解決することが難しい場合には、専門家や行政等の助言や指導を求めてまいります。



基本目標 1 【支え合い】 住み慣れた地域で支え合い自立した暮らしの推進

実施計画	具体的実施項目
1) 地域の課題発見と支え合い活動を推進します	① 自治区ごとに支え合いマップの作成を支援します 「支え合いマップ」の作成を通じて、地域課題の発見や解決に向けた取り組みを通じて、助け合いの輪を広げます
	② 地域を基盤とした小地域ネットワークの構築を進めます 自治区でできる支え合いは自治区で行い、自治区でできないものは生活圏域や4地区コミュニティに範囲を広げ、関係機関が連携して解決を図ります
	③ 住民同士の気づきあいや助け合いができる地域づくりを進めます 地域づくりに関わる役員や福祉関係ボランティアなどに声掛けし、地域福祉懇談会や講演会等を開催します
2) 地域交流の場づくりを推進します	① 地域の人々が気軽に集える居場所づくりや世代間交流の場づくりを支援します 高齢者中心のいきいきサロン等に地域の人々を加え世代間交流ができるように努め、また気軽な意見交換ができるよう「サロン交流会」を企画します
	② 健康づくり・生きがいづくりの取り組みを強化します 週1体操教室の取り組みを拡げ、地域住民の健康づくりを推進します また、住民主体の介護予防事業として町内全域に定着するよう支援します
	③ 地域行事に多くの住民が参画し、交流を通して活性化を図ります 地域の行事や祭りに福祉関係団体等の参加を促し、地域との交流ができる機会を増やします

実施計画	具体的実施項目
3) 地域福祉活動を支援します	① 地域福祉活動を進めていくため、4 地区コミュニティの活動を支援します 地域福祉ネットワーク協議会を設置し、問題解決に向けた地域福祉活動をめざすとともに、福祉活動に生活支援コーディネーターが積極的に関わります
	② 地域の自治委員・民生児童委員や地域で活動する団体等の連携を強化します 自治委員（福祉委員）と民生児童委員との懇談会や支え合い会議等を開催し、生活課題の共有を図り顔の見える関係づくりに努めます
	③ 地域福祉活動を実践されている方々等に研修の機会や意見交換の場を作ります 地域福祉活動の重要性を確認するほか、関係者の連携強化に資するよう、研修会や情報交換会を開催します
4) 支え合いに関わる人材を育成します	① 各種ボランティアの養成講座を開催します 地域ニーズに応じた生活支援ボランティア講座、介護予防サポーター養成講座等を開催し、人材育成に努めます
	② ボランティア活動につなげる研修会や出前講座を開催します 身近な地域課題、初めてでも取り組める活動、自然災害から避難支援等を題材に研修会や出前講座を開催し、人材の掘り起こし・育成に努めます
	③ 学校・地域・福祉施設との交流を通した福祉教育を推進します 学校では地域や福祉施設等の方々の協力を得ながら、地域では伝統行事やイベントにおいて多世代との交流の機会を増やし、地域活動への参画を呼びかけます
	④ 認知症サポーター養成講座を開催します 認知症の方が住み慣れた地域で安心して暮らせるように、町内の企業・事業所をはじめ、様々な団体等に認知症サポーター養成講座への受講を要請します

基本目標 2 【安全・安心】安全に安心して住み続けられる地域づくりの推進

実施計画	具体的実施項目
1) 発災時における要配慮者対策の充実に努めます	① 避難行動要支援者に係る避難体制づくりを推進します 支え合いマップづくりを進める中で、自治区における避難行動の役割を確認しながら、日頃から避難行動要支援者への見守り・声掛けを推奨します
	② 防災・減災意識を高めるための学習会や避難訓練等に支援・協力を行います 防災士会や関係機関が開催する研修会や訓練に積極的に関わり、防災・減災意識の高揚に努めます
	③ 玖珠郡災害ボランティアネットワーク協議会を運営します 研修等を通じて協議会に参画する関係団体との連携を強化します また、発災時には関係団体と情報を共有し、必要があれば支援を要請します
2) 安全に暮らすための防犯対策の充実に努めます	① 地域でのあいさつ運動や声掛け・見守り体制の充実に努めます 民生児童委員や自治委員(福祉委員)・老人クラブなど地域の連携を強め、効果的な見守り体制を作ると共に、認知症の方への声掛け模擬訓練を行います
	② 高齢者の交通事故防止や詐欺被害防止のため、警察署や金融機関など関係機関と連携します
3) 相談体制の充実に努めます	① 信頼される相談窓口になるよう職員のスキルアップに努めます
	② 問題解決に向けた相談を専門職につなげるため、関係機関との連携を強化します 普段から関係機関の職員とのつながりをつくれます
	③ 来所相談ができない方への訪問による相談体制を強化します 早目の早めの対応が功を奏する場合もあるため、相談内容を判断しながら積極的な訪問に努めます

実施計画	具体的実施項目
4) 情報提供 の充実に努め ます	① 社協広報「めるへん」の見やすい紙面づくりと定期発行に努めます
	② 社協ホームページでは、住民皆さんが必要とするタイムリーな情報を発信します
5) 権利擁護 体制の充実に 努めます	① 高齢者や障がい者等の権利が擁護され、自らの意思で生活が送れるよう、支援体制を強化します
	② 成年後見制度や権利擁護事業について、住民皆様にわかりやすく周知します

基本目標 3 【地域で活躍】

生きがいをもって社会に参加し活躍できるしくみづくりの推進

実施計画	具体的実施項目
1) 人材発掘 と活躍の場を 提供します	① 住民自らが参画し、多様な地域課題の解決に取り組めるよう、研修会等の学習の機会を増やします
	② 各種会合等を通じて、必要なボランティア活動の状況提供等により、新規のボランティアを積極的に受け入れします
	③ 地域課題を解決につなぐボランティアの組織づくりと活動される方々をコーディネートします



森地区 小地域福祉活動計画

【スローガン】

思いやいの輪が広がる 元気なまち 森

若い年代から高齢者の方々が、みんなで声を掛け合って、助け合い、笑顔と活気があふれる元気な地域にしたいという気持ちでこのスローガンに決めました。

地域の福祉課題

- ・ 支え合いや助け合いが必要
- ・ 一人暮らしが増えて見守りをする人が多くなった
- ・ 避難場所が遠く高齢者はひとりで行けない
- ・ 隣の人に会うことが少なくなった
- ・ 障がい者がどこにいるかわからない など



基本目標

①支え合いマップを作ろう

- ・ 地域のことを話し合う機会がない
- ・ 各団体の情報共有ができていないし、横のつながりがない
- ・ 助け合いの仕組みがない
- ・ 若い人たちの参加が少ない
- ・ 買い物やゴミ出し、庭木の選定などに困っている人がいる など



②地域のことを話し合う機会を作ろう

- ・ 誰でも気軽に寄れる場が少ない
- ・ 世代間ギャップがある
- ・ "誰でも食堂"がない
- ・ 若い人が地区から出ていく
- ・ 子供が少ない など



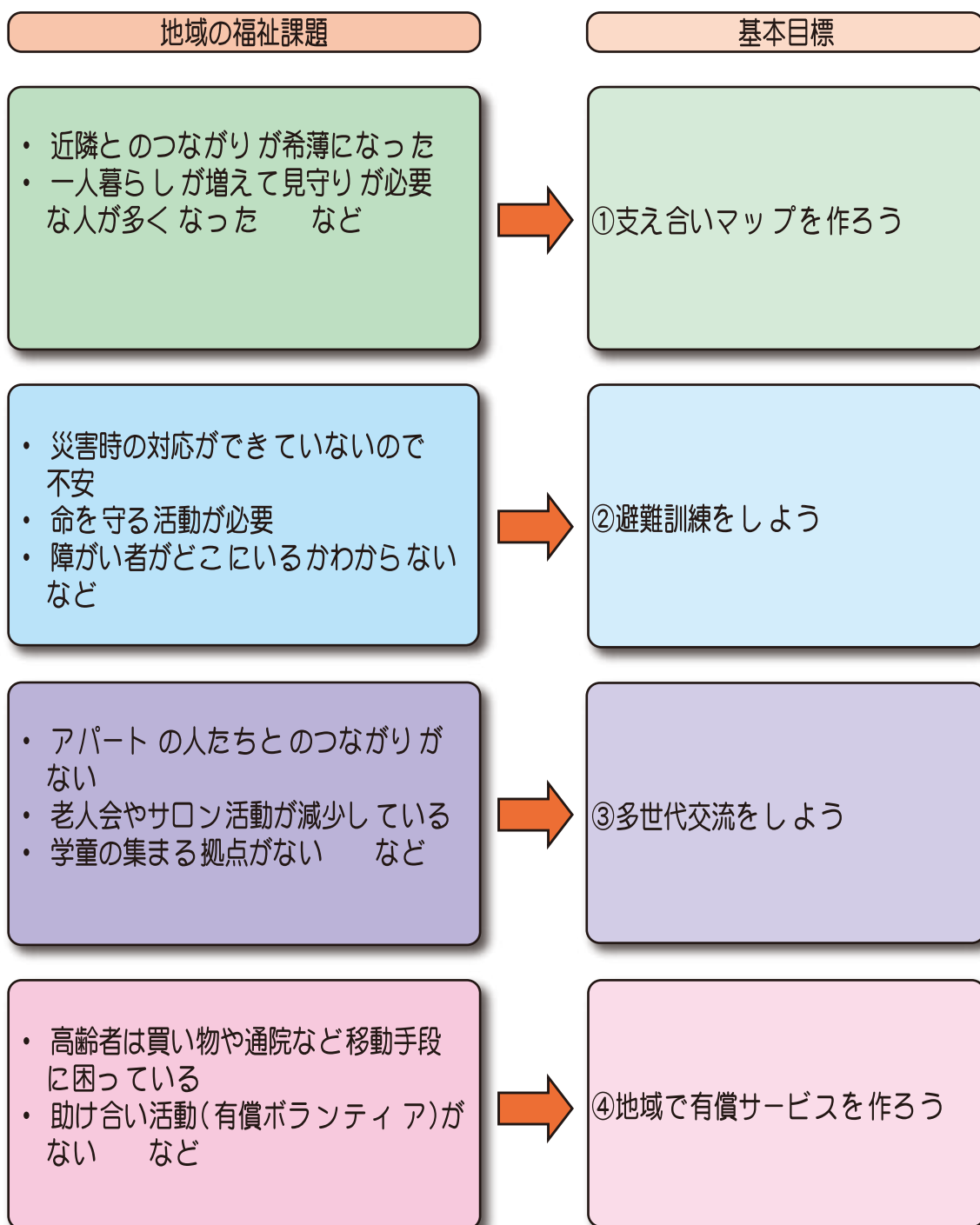
③多世代交流をしよう

玖珠地区 小地域福祉活動計画

【スローガン】

みんな笑顔でつながろう
～いつでも どこでも だれとでも～

お互いを認め助け合い、みんながつながり仲のいい玖珠地区を作りたいという思いを込め、子供にも分かりやすい言葉でこのスローガンに決めました。



北山田地区 小地域福祉活動計画

【スローガン】

老いも若きも明るく元気な I♥北山田

老若男女すべての方たちがお互いに認め合って助け合っていき、みんなが明るくハツラツ元気な地区になるといいなという思いを込めてこのスローガンに決めました。

地域の福祉課題

- ・近隣との付き合いが希薄になった
- ・独居や老々世帯が増えて見守りが必要な人が多くなった
- ・買い物や通院に困っている人がいる
- ・自治区内でマップの共有ができていない
- ・ボランティア人材が少ない など



基本目標

①近隣での声掛けや支え合いマップの強化をしよう

- ・防災に対する関心が薄い
- ・災害時どうするか話していない
- ・自主防災組織がない
- ・災害時の避難場所が少ない など



②防災意識を高める講座や避難訓練などをしよう

- ・若い人や子どもたちとのコミュニケーションが不足している
- ・仕事があるため若い人の集まりが少ない
- ・自治区内で足並みがそろわない
- ・世代間ギャップがある
- ・世代交代が困難 など



③多世代で集う場を作ろう

八幡地区 小地域福祉活動計画

【スローガン】

声かけ合って みんなが集う 八幡の里

地域の人みんなが顔見知りになり、困ったことがあるときは、お互いさまと気軽に助け合いができるまちづくりにしようという気持ちでスローガンに決めました。

地域の福祉課題

基本目標

- ・祭りや行事の話だけで地域のことを話し合う機会がない
- ・若い人との話し合いが少ない
- ・活動を進めるリーダー的存在が少ない
- ・会議に来ない人が増えている など

①話し合う機会を作ろう

- ・近隣との付き合いが希薄になった
- ・定期的な寄り合いが少なくなった
- ・サロンに男性の参加が少ない
- ・世代間交流が少ない など

②地区でなるべく寄り合おう

- ・子供から高齢者までの交流が少ない
- ・食事づくりが難しい人や一人で食事をする人が増えている
- ・子供が少なく、中学校も合併によりなくなり、関わりが少なくなった など

③多世代交流の場を作ろう

- ・高齢者は買い物や通院など移動手段に困っている
- ・助け合い活動の仕組みがない
- ・若い担い手が少ない
- ・道路や川、空き家などの雑草が困る など

④助け合い活動（有償サービス）を作ろう

- ・防災に関する関心が少ない
- ・災害時の一人暮らしの方などの避難方法を決めていない
- ・自主防災組織ができていない など

⑤災害時の対応を実践していこう

玖珠町第5次地域福祉活動計画書（概要版）

発行/社会福祉法人 玖珠町社会福祉協議会

〒879-4405 大分県玖珠郡玖珠町大字岩室24番地1

電話：0973(72)5513 FAX：0973(72)2816